

8月 行事のお知らせ

8月のおはなし会「おひざにだっこのおはなし会」「おはなしのへや」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止します。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

移動図書館車（ドリーム号）巡回日程

階見コース	宅配北	8月6日(木)	上下北小学校	お休み
清岳コース	宅配南	8月13日(木)		8月20日(木)
吉野コース	宅配北	8月20日(木)	上下南小学校	お休み
矢野コース	宅配南	8月26日(水)		8月27日(木)
ほのぼの苑 かがやき苑		8月27日(木)		

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、状況によって巡回日程は、変更または中止になる場合があります。

展示 『共に』 期間 8月5日(水)～9月6日(日)

上下の宝物「分水嶺(分水界)」



二森

『上下町は、その名のとおり陰陽を結び石州街道の宿場町である。幕府の天領として備後、備中5万石を治める代官所がおかれ、石見銀山で採れた銀の中継集積地として栄えた。古くから中央の文化が伝わった歴史と文化の町であり、いまでも往時をしのばせる白壁土蔵づくりや格子戸の家などが残っている。まるでタイムトンネルをぬけたような心持ちにさせられる、とっても素敵な街だ。』

国道432号線を南から上下町をめざすと、ちょうど町役場(合併前)の手前で大分水界を超えることになる。大分水界のすぐわきにある町役場というのは、全国でも珍しいのではないだろうか。付近には分水嶺地点を示す看板が立てられ、町から少し離れた県道27号線吉舎油木線のわきにも分水嶺を表す石碑がある。分水嶺と歴史の両方が楽しめるスポットとして、大分水界が通る市町村のなかでもおすすめの街のひとつである。』参考文献 『日本の分水嶺 地図で旅する列島縦断 6000キロ』 291/ホ



元上下町役場前



小堀



国留



図書館 上下分室だより はづき 葉月 回覧

編集・発行 府中市立図書館上下分室 指定管理者 (株)図書館流通センター
TEL62-8805/FAX 62-8848 令和2年8月1日発行

利用案内

- 開館時間 午前10時～午後6時30分(上下分室)
- 個人貸出 図書一人10点まで(内CD5点)
DVD一人5点まで
- 貸出期間 2週間
- インターネット予約は
パソコン <http://www-lib.city.fuchu.hiroshima.jp>
携 帯 <http://www-lib.city.fuchu.hiroshima.jp/toshoi>

里山のいきものたち

○カヤネズミ



8月 図書館カレンダー 9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

はおやすみです

田んぼで生きる クモ

クモ みなさん、クモは嫌いですか？クモは身近なところに驚くほど多くの種類がいて、それぞれに暮らし方や獲物を捕る方法が違って、知れば知るほど大変おもしろい生きものです。田んぼにもいろいろなクモがいます。歩き回ってエサを探すコモリグモやフクログモ、ハエトリグモ、網を張るナガコガネグモやアシナガグモなどなど、これらのクモは、ウンカなどの稲の害虫を日夜捕らえて食べ、大昔からずっと稲を守ってきました。



- 早春、越冬場所から目覚めるクモたち 冬の間、稲の切り株のすきまや枯れ草の中、樹皮のすきまなどで越冬していたクモたちは、桜が咲くころ、いっせいに活動しはじめます。
- ほとんどの親グモは冬の前に死に、子グモが越冬 多くのクモの親グモは、秋に産卵してから、冬越し前に死んでしまいます。冬越しするのは、卵からふ化した子グモ(幼体)と、あと1回脱皮すると親グモになる亜成体です。
- 子グモが卵のうちで冬を越し、春に出てくるクモ ナガコガネグモやクサグモなどは、糸で卵を幾重にもくるんだ「卵のう」の中でふ化した子グモが、そのまま外に出ずに冬を越します。卵のうは卵や子グモを厳しい寒さから保護してくれます。
- クモは稲の守り神(銅鐸に描かれたクモ) 稲にはウンカなどの害虫が多く、大昔から悩まされてきました。その害虫を捕食するクモは、「稲の守り神」のように思われてきました。田んぼで稲作りが始まったのは、約2800年前の縄文時代の終わりからだといわれています。弥生時代に入ると全国に広まり、人口も増え、稲作文化が開花します。弥生時代に作られた銅鐸の中には、カマキリやカエルとともに、胴体に8本の足を伸ばしたクモの絵が描かれているものがあります。いずれも稲の害虫を捕食してくれる生きものです。当時の人々は、害虫を退治してくれる益虫を「稲の守り神」として、祈りを込めて描いたのではないのでしょうか。

参考文献 『田んぼの生きものたち クモ』48/シ